

令和4年1月13日

産業厚生委員会記録

阿久根市議会

1. 日 時 令和4年1月13日(木) 10時00分開会
10時36分散会
2. 場 所 第2委員会室
3. 出席委員 白石純一委員長、中面幸人副委員長、
川上洋一委員、竹原信一委員、木下孝行委員、
山田勝委員、濱崎國治委員
4. 事務局職員 議事係主査 東 岳也
5. 会議に付した事件
所管事務調査について
6. 議事の経過概要 別紙のとおり

○ 所管事務調査について

白石純一委員長

ただいまから、産業厚生委員会を開会いたします。

本日は12月に開催した委員会で、所管事務調査の候補地を8件選定し、12月24日までにライングループでアンケートを取った結果を基に、その中から現地視察先及び日程を決めていきたいと思っております。アンケート結果については、グループラインでも確認できますが、投票の多い順から、1、大分県国東市大分うにファーム、陸上ウニの養殖が6票、2、宮崎県えびの市の廃校・温泉活用のフグの養殖が3票、3、福岡県宗像市、道の駅むなかたが2票、4、熊本県上天草市松島港の開発が1票となっています。

具体的な日程、視察先の協議のため、このあと休憩を取り、その中で協議を行いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは休憩に入ります。

(休憩 10時01分～10時26分)

白石純一委員長

休憩前に戻り、委員会を再開します。

2月をめどに考えておりました、視察先についての御意見をお伺いします。

中面幸人委員

先ほど、日程と構想がある程度、話が進みましたが、新しい変異株のコロナの感染拡大が出始めておりますので、相手先のことも考えなければならないので、一応日程については、今後考えるという形の中で、先ほど言われました、うにファームと道の駅むなかたのことについては、コロナが落ち着いたら視察に行くという形を残してこの所管調査をして欲しいと思っております。

白石純一委員長

ただいま中面委員からございましたが、候補地としてはうにファーム、道の駅むなかたを残し、日程についてはコロナの状況を見極めて、あらためて判断、計画するというところに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ではそのように決しました。

次に、所管事務調査事項にある「水産業の振興について」のうち、栽培漁業センターの今後について、所管課である水産林務課に出席を求めることについて、本日、所管課が出席できるか確認したところ、別の用務のため出席が不可能ということでしたので、改めて日程を調整したいと思います。

この調整については、委員長に御一任いただきたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認め、そのようにします。

日程が決まりましたら、改めて委員にお知らせします。

ほかに委員から何かありますか。

川上洋一委員

水産林務課の栽培漁業センターの件と絡むんですけど、私が前から言っている耕作放棄地を使ってシジミを養殖して、これを生産者の収入源となるようにしていきたいなという考えが前からあったんですけど。数字的に言うと、田んぼの1畝、10坪で米は1俵しかできない。売買ったときに8千円なんです。ところがシジミの場合、3年先には、計算上では、1畝で20万円の生産者の所得があるわけです。そうしたときに、これだけ耕作放棄地が多い、そして高齢者が多い、後継者がいないのを踏まえて考えると、親が田舎では稼げないから都会に出す。いいことなんですけど、そこで結婚してしまうと、そこで子供ができて、その子にとってはそこがふるさとになる。そうすると、子育てが終わらないと帰れないというのが現状だと思うんですよ。そういうのを踏まえて、私と一緒に小林で始めた人たちが、2年経って売買ができる状態になってるわけです、販売をしていると、農業者が。そこで収入もあると、1反くらいで200万くらいになっていると、今の私の聞いたところでは。そういう話で、ぜひ今後、阿久根市の過疎、低所得を振り切って何かをやっていかなきゃいけないというところであれば、米作りと言っても失礼ですけど、佐賀県とか、ここら辺だったら大口、人吉そこら辺の米ブランドとすれば、美味しくていいんですけど、平地が少ないんですよね、出水と違って、阿久根の場合は。そこを何とか利用してできるのが、農業者も漁業者も生産者としてできるのがシジミかなと。手間もいらぬし、水の管理さえしとけば育ってくれるということで、自然の中の植物、魚もそうなんですけど、漁業者もそうなんですけど、自然の中の品物は誰のものでもないから枯渇してしまうんですよ、取れ取れで。農業者が何でやっていくかという、毎年毎年、種を植えて、育てて出荷するから農業はずっと続いていくけど、漁業者というのは育てないでいて、機械を使って取るだけ取って、結局少しずつ減っていく。太平洋のマグロにしても、あれだけ広い海のマグロがいなくなっていくわけですから、考えればそれと同じだと思うんですよ。それを管理しながら育てていくというのは大事だと思います。売り先も、東京の豊洲の魚介担当者が、全部東京で取りますと、私は確認しました。何十トンでも取ります毎日、と言われてます。

〔「結論はどんなふうになった」と呼ぶ者あり〕

結論はですね、小林でやっているから、小林を今後、来年でもいいから、それを1回皆さんで、これは完全に産業厚生の仕事で、市民の所得を上げるために。観光も市民の所得を上げるためですよ。だけどその観光になるベースが、考えたところで私の中では何があると。温泉くらいですよ、阿久根では、観光と言っても。

白石純一委員長

川上委員、まとめて結論をお願いします。

それを今後、阿久根のために、ためにと言ったら高飛車じゃっどん、そうじゃなくて、所得を上げることが我々が一番先に任されている市議員としての、任された、選ばれた人間の中の重要なところだと思うんです。

〔発言する者あり〕

白石純一委員長

調査として前向きに検討いただきたいという結論ですか。

〔川上洋一委員「そういうことです」と呼ぶ〕

わかりました。

濱崎國治委員

反収200万というのは本当、画期的だと思うんですよ、田んぼから反収200万は。それはだいたい実績的にそういうのが挙がっているわけですね。

川上洋一委員

そうですね、最初は小林市の商工会議所なんですよ。小林市に資源がないということで、小林市の商工会議所が試算をして、私の知り合いの小林市の日本で一番有名なシジミ研究者なんですけど、その人に相談して、こげんじゃったいどん、どげんかならんどかいと。

白石純一委員長

濱崎委員の御質問は、実績として収益があがっていますかと。

川上洋一委員

はい、そういうふう聞いています。

白石純一委員長

そういうためにも今後、調査を。

山田勝委員

どっちにしてもですね、そういう可能性があるものは、行たて見て、チャレンジしてみないかんたつて。私は前向きに取り組むべきだと思います。

中面幸人委員

川上委員の意見についてですが、今回の所管調査でも、農業振興について謳っておりますので、ぜひ今後ですね、その辺も研究していただきたいと思います。

木下幸人委員

市の発展に対しての可能性として、農業も含めて、市民が事業をできるような考え方で検証されてるわけで、可能性を求めるためには現地を視察して、いろんな話を聞くべきだと思います。コロナの影響で今、宮崎県のほうが拒否してますから、日程を調整してもらって、日帰りの調査ということで行ってもらえればと思います。あわせて小林市は市のほうに意見が聞けるのあれば、あそこはチョウザメの養殖も日本でやっております。それも別として話が聞けたらなと思います。

白石純一委員長

今の御意見も今後の調査項目として、調査、検討していきたいと思います。

ほかに御意見ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、以上で、本日の産業厚生委員会を散会いたします。

(散 会 10時36分)

産業厚生委員会委員長 白石 純 一